町民文芸

只見短歌会　五月詠草

大塚栄一　指導

姑らしき事何も出来ぬ母の日に嫁の贈りしミキサー使ふ　五十嵐夏美

無防備に赤き芽を出す姫小百合庇ふ棒立て花を見んとす　小倉キミ子

どの子にも農継がせずに我老いて幾度も休み馬鈴薯植ゑる　馬場　八智

還暦の後の隔年同級会に出席者減り思ひ増しきぬ　関谷登美子

霜の朝イベントに通ふ鶴賀城桜咲き満ち枝低く咲く　新国由紀子

株植ゑてジャーマンアイリス咲き初めぬ贈りし友の一周忌近し　古川　英子

内外の女の孫二人成人式に纏ふ衣装に話の弾む　渡部ゆき子

朝々に飲む薬など見失ひしかつての母にわが身重なる　目黒　富子

いつしかに母の亡くなりし齢過ぎ鏡を見れば白髪の多し　渡部ヨリ子

臥す窓に孫持ちくれし鉢植ゑのカルミアの花真赤く咲けり　新国　洋子

（出詠順）

只見俳句会　六月例会

目黒十一　指導

実家より吾子の背中の笹粽　邦男

思い出のあの家この家菖蒲葺く　敦子

菖蒲湯に沈みて今日を省みる　邦夫

桐の花詠む楽しさや無人駅　礼

ライトアップお寺の桜輝けり　リウコ

桜散る幸福の日と不幸の日　信

身重とは眠きことなり聖五月　順子

せんべやの瓶の屈折五月来る　恒夫

鯉幟小包み開く男の子　都

母の日や走り書きした包み紙　吉児

残雪の大パノラマや奥穂高　一穂

奥飛騨路うぐいすの湯に鶯の声　洋子

山法師好みし句友今は亡し

白藤を池面に写し緋鯉かな

葉桜のかげり濃くなる雨もよい

会津桐の花咲く下や工人祭

くたびれて眺める光の山桜

桜咲く行き交う人もウキウキと

渓渡る鉄路の錆や雲の峰

再稼働ならぬことなり夏の星

無住家の庭のはなやぎ花棗

跡目継ぐ話決着松の芯

夕間暮螢の声遠くにて

麦の秋金色に伸ぶ生命線